長野県総合計画審議会
長野県人口定着・確かな暮らし実現会議

○開催日時　平成30年９月４日（火）16：00～17：15
○開催場所　長野県庁　議会棟第一特別会議室
○出席委員　長野県総合計画審議会
　春日委員　園原委員　中嶌委員　中條委員　中山委員　濱田委員
　畠山委員　山浦委員
長野県人口定着・確かな暮らし実現会議
　石田委員
　（春日委員　中條委員　中山委員　濱田委員　山浦委員）
長野県
　阿部知事　小岩企画振興部長　小野沢総合政策課長　保科企画幹

１　開　　会

（保科企画幹）

ただいまから長野県総合計画審議会及び長野県人口定着・確かな暮らし実現会議を開会いたします。私は、本日の司会を担当いたします総合政策課の保科千丈と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

初めに、本日の会議の構成についてご説明申し上げます。本日の会議は、昨年度、平成29年度までを計画期間とします前の５か年計画、「しあわせ信州創造プラン」の最終年度の政策評価に加えまして、信州創生戦略の政策評価についてご審議いただくこととしております。このため、総合計画審議会及び人口定着・確かな暮らし実現会議との合同開催とさせていただきます。

総合計画審議会の委員の皆様に加えまして、人口定着・確かな暮らし実現会議の石田委員様にもご出席いただきますとともに、実現会議の会長の阿部知事も出席させていただいております。

次に、本日の総合計画審議会でございますが、委員15名のうち８名、過半の委員のご出席をいただいております。審議会条例の規定によりまして会議が成立していることをご報告申し上げます。

なお、安藤委員、小口委員、小林委員、近藤委員、関委員、野原委員、藤原委員、また実現会議の大森顧問がご都合で欠席となっております。

それでは、審議に先立ちまして、阿部知事からごあいさつを申し上げます。

２　知事あいさつ

（阿部知事）

皆様、改めましてこんにちは。本日は台風が接近する中、皆様方にはお集まりいただきまして大変ありがとうございます。また、濱田会長を初め、総合計画審議会の委員の皆様方、さらには人口定着・確かな暮らし実現会議の委員の皆様方には「しあわせ信州創造プ

ラン2.0」策定に当たりまして、大変なご協力、ご支援を賜りましたこと、改めて心から感謝申し上げたいと思います。本当にありがとうございます。

本日は、しあわせ信州創造プラン、昨年までの計画と、そして信州創生戦略について、私どものほうから主な取組と成果の整理分析をお示しさせていただいた上でご評価をいただきたいというふうに思っております。

本年４月から新しい総合計画をスタートさせているわけでありますけれども、これまでの取組の成果をしっかりと踏まえて、新しい計画のさらなる推進、そしてこれから私どもとしては来年度、平成31年度の予算編成に本格的に着手していく段階になりますけれども、次年度の予算編成に向けても、今回の評価結果を参考にしながら取組を行ってまいりたいというふうに思っております。

選挙中には少し、しあわせ信州創造プランのこの学びと自治であったり、しあわせ信州創造プランのキーワードは、候補者としては少し封印をさせていただきました。私が選挙で使うと、県としての広報が候補者を応援しているみたいな話になりかねないので、そういうことがあってはいけないなということで、街頭演説等では、直接的なしあわせ信州創造プランのキーワードについては、意識的に少し控えさせていただいたところがありますけれども、選挙も終わりました。これからしっかりしあわせ信州創造プラン2.0、この内容であったり、あるいは学びと自治のキーワードであったり、こうしたものをしっかり、県民の皆様方に広めていくことができるように取り組んでいきたいと思っております。

本日はそういう意味で、これまで私、取り組んでまいったことの総括をしていただく場でございますので、どうか忌憚のないご意見をお出しいただき、そして私ども、皆様方のご意見を真摯に受けとめさせていただく中で、さらに計画の推進、さらには長野県の発展のために取り組んでまいりたいというふうに考えておりますので、どうかよろしくお願いいたします。私の方からは以上でございます。

（保科企画幹）

それでは早速、議事に入ってまいりたいと思います。

本日は総合計画審議会及び人口定着・確かな暮らし実現会議の合同開催ということでございますが、総合計画審議会の濱田会長に進行をお願いしたいと思います。それではよろしくお願いいたします。

３　会議事項

（１）平成30年度政策評価（案）について

・しあわせ信州創造プラン（長野県総合５か年計画）

・信州創生戦略（長野県人口定着・確かな暮らし実現総合戦略）

（濱田会長）

皆さん、こんにちは。信州大学学長の濱田でございます。委員の皆様には本当にご多忙の中、今日は本当に台風が今、接近している中、お越しいただきまして誠にありがとうございました。

昨年10月以来でございますので、ほぼ１年ぶりに顔を合わせるということで、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

それで、当審議会から答申を行った新たな総合５か年計画「しあわせ信州創造プラン2.0」というのが無事に策定されまして、さまざまな取組がもうスタートしているところでございます。委員の皆様のご協力に改めて感謝を申し上げたいというふうに思います。

それで本日の議題でございますけれども、しあわせ信州創造プラン及び信州創生戦略の最終年度の政策評価案について議論して、改めて政策課題や今後の取組についてご助言をいただければというふうに考えております。

その後、現行の評価制度の課題等を踏まえて新たにスタートした「しあわせ信州創造プラン2.0」の評価の仕組みについてご意見をいただきたいというふうに考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。それでは、座って進行させていただきたいと思います。

それでは、「政策評価について」を議題とさせていただきます。事務局のほうから説明をお願いいたします。

（小野沢総合政策課長）

総合政策課長の小野沢弘夫でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私から資料１、それから資料２に基づきまして、しあわせ信州創造プラン、それから信州創生戦略、こちらの政策評価案につきましてご説明をさせていただきます。座って失礼いたします。

まず資料１をご覧ください。「しあわせ信州創造プランの政策評価について」ということでございます。趣旨につきましては書かれているとおりでございます。

このしあわせ信州創造プランについては、25年から29年度までの計画期間についての進捗状況について評価をいただくものでございますが、各指標に掲げる目標の達成状況、こちらは現在、集計中のものもございます。そうした中で極力、今、反映できるものは反映させていただいた資料を、今、お手元にお配りをさせていただいております。本日のご議論を踏まえつつ精査をした上で、９月中に県議会で報告、一般に公表するということを考えているところでございます。

次に、２のプランの総合分析のところでございます。昨年度までは、各指標の達成状況について一覧にしたもののみを掲載しておりましたけれども、今回、計画の最終年度の評価ということでございますので、そうした目標の達成状況に加えまして、各プロジェクトの状況について、その具体的な成果ですとか課題などもまとめて分析をしたところでございます。

まず達成目標の進捗状況につきましては２ページをご覧をいただきたいと思います。（１）－１ということで、プロジェクト別の達成目標の進捗状況でございます。

進捗状況の判定区分につきましては、昨年度から評価の仕方を変えてございまして、進捗率100％以上のものをＡ、それから80％以上100％未満のものをＢ、80％未満のものをＣという形で整理をさせていただいているところでございます。

その状況につきましては、その下の表をご覧をいただきますと、「実績値なし」というようなものも散見をされているところでございます。このため、今回、計画の最終年度の評

価ということもございますので、（１）－２、プロジェクト別の進捗状況（「実績値なし」について、昨年度までの評価をもとに整理）という形で書かせていただいているものをベースに、評価をしていただいたらどうかと思っております。

ここでは、今年度、数値が取れないような指標もございますので、そうした指標につきましては、直近で出た実績、これをもとに整理をしてございます。その整理をしたものが３ページの上の表ということでございまして、いわゆるＡ評価につきましては20項目ということで47.6％、それから80％以上100％未満というものが14.3％ということで６項目という形になっております。

１ページにお戻りをいただきまして、２のところの最初の２行はそれを表しているところでございますが、具体的な取組ですとか成果、こちらのほうをその下に記載をさせていただいております。代表的な取組として、１の次世代産業創出プロジェクト、それから８の教育再生プロジェクトにつきまして、そこに若干書かせていただいております。

具体的にプロジェクトごとの分析につきましては５ページ以降にそれぞれのプロジェクトにつきまして、アクションごとの分析、そこに係る達成目標の状況、そして総括という形でそれぞれ整理をさせていただいております。

例えば５ページのプロジェクト１のアクション分析の１、成長期待分野への展開支援というふうに書いてございますけれども、具体的に例えばアジアの航空機システム拠点の形成を推進、その結果、参入企業としては60社に増加したというような形で、どんな取組をしどんな成果が出ているか、あるいは、行ってきた上での課題はどうかといった形でそれぞれのアクションごとに整理をさせていただいているものでございます。こちらを参照いただければと思います。

続きまして施策の総合的展開についてということで、１ページのところに評価をさせていただいております。

これにつきましても、３ページの（２）－１のところに、施策の総合的展開の進捗状況について一覧にしてございます。先ほど申し上げましたように実績値がとれないものが、実は31ございますので、これも同じように、直近の実績値を踏まえて評価をした４ページの上の表をご覧いただきたいと思います。

そうしますと、100％以上のＡにつきましては65項目で46.4％、それから80％以上100％未満のＢにつきましては14項目の10％ということでございまして、あわせて56.4％、79項目で80％以上の状況ということでございます。

ということで、しあわせ信州創造プランの政策評価については、そのような形でまとめさせていただいたところでございます。

具体的にどのような取組をしたかというのは、資料１－２に詳細な取組内容や成果、課題といったものを記載させていただいておりますので、こちらもあわせてご覧をいただきたいと思います。

なお、Ｃ評価がついたものの分析等につきましては、資料１の15ページ、16ページにＣ評価のついた指標の一覧を整理分析してまとめてございますので、こちらもあわせてご覧をいただければ思います。

あちこち資料が飛びまして申し訳ございませんが、以上がしあわせ信州創造プランの政策評価案でございます。

続きまして資料２でございますけれども、こちらが信州創生戦略の政策評価ということでございます。資料の２をご覧ください。

信州創生戦略につきましては、平成27年度～平成31年度の評価という形になってまいります。こちらのほうは昨年度と同様の評価方法で整理をさせていただいておるところでございます。

進捗状況の概要をご覧いただきたいと思いますけれども、そこに記載のとおり、実績値を把握できる５つの数値目標のうち、３指標がＡ、２指標がＣということになりました。指標の判定区分は先ほどと同様でございます。

基本目標の進捗状況は、個別にはその下の（１）の表をご覧いただきたいと存じますけれども、この中で１点、ちょっとご留意をいただきたいと思っておりますのが、仕事と収入の確保の中の労働生産性でございます。Ｃと書いて（Ａ※）をつけてございます。この資料２の裏面（参考）をご覧ください。労働生産性の算出根拠となります県民経済計算、これが遡及改定をされました。そうしたことで、基準値そのものが、そこに記載のとおり、目標設定時よりも低く算定をされてございます。

実は遡及改定後の計算もしてまいりますと、いわゆる製造業の付加価値額の増加等によりまして、平成27年度は基準年度に比べて6.4%、実際には増加しているということでございます。目標設定時の想定でいきますと、基準値8,012千円に対し8,137千円ということが目標でございましたので、そこは1.6%の増という予定をしておりましたが、それに比べますと、6.4%増えているということなので、一定の評価といいますか、成果が上がっているということでＡと捉えてもいいのではないかということで、※をつけて括弧書きでＡとさせていただいているところでございます。

以上を踏まえますと、おおむね進捗としては順調に進捗をしているものと思っておりますけれども、引き続き、しっかり取り組んでまいらなければいけないというふうに考えているところでございます。

評価の詳細につきましては資料の２－２にございますので、併せてご覧をいただきたいと思います。

私からの説明は以上でございます。

（濱田会長）

はい、どうもありがとうございました。それでは、ただいま説明のございました、しあわせ信州創造プラン及び信州創生戦略の進捗状況について、ご意見をいただきたいと思います。ご質問でも結構ですので、どなたからでも結構でございますので、ぜひ発言をお願いできますでしょうか。

いかがでございましょう、何なりと質問的なものでも何でも結構でございます。

（中山委員）

よろしいですか。お世話様でございます。中山でございます。私の方からはやはり働く者の代表ということで、お手元の資料の９ページでございます。相対的に見て、進捗状況のＣが３つ出てきてございます。こういう中で、個別にもやはり女性の雇用の問題でございます。ここにも記載をしていただいてございますけれども、就業率全国５位でありなが

ら育児中の女性では24位まで低下すると。育児等とで両立可能な多様な働き方の推進ということでご提起をいただいております。また、若い世代の雇用と自立の促進ということで、どうしてもUターン就職の促進協定がありますけれども、県内出身のUターン就職率は続落をしているというような実態もございます。さらには、最近非常に話題になってございます障がい者の社会参加と雇用促進の関係でございますけれども、これは工賃の関係でございますけれども、全国を下回っているというような状況がございます。

こういった状況で申し上げたいのは、今、働き方改革が動き出してございますので地に足がついた形で、地域の中でしっかりこれから公労使といいますか、前の地方事務所、今は地域振興局でございますけれども、その中で具体的に進んでいくことを期待しながら、県のリードも含めてしっかりやっていっていただければありがたいというふうに思ってございます。私の方からは以上でございます。

（濱田会長）

ありがとうございました。何か事務局から今のに対してはありますか、なければ、よろしいですか。

多分これ、例えば高校生の就職内定率100％を目指す。100というのはどうやってもなかなか無理だと思うので、もともと目標としてある意味あり得ない数字なのかなという感じはしなくもないんですけれども。

ではほかの方、ご意見をお願いできますでしょうか。ではどうぞ、春日委員、お願いします。

（春日委員）

すみません、しあわせ信州創造プランの政策評価報告書の53ページですか、私は農林業の関係なものですから、その農林業体験など体験活動の推進というところの評価で、「就きたい仕事のイメージができる」が68.4％というところで、こっちの、まとめのほうの12ページにもあるんですけれども、農林業体験ということなのか、ほかの企業も含めて就業体験なのか、ここら辺がちょっとよくわからなかったので、お聞きしてみたいなと思った次第です。

実際に68％ぐらいがやられていることなんでしょうけれども、どういう業種にその就労体験をしているのかという中身を知りたいなと思ったんですが。

（小野沢総合政策課長）

基本的にこれは農業・林業体験など、ということで整理されておりますけれども、この質問については、特にこの分野、あの分野ということではなくて、あくまでもそれぞれ学生一人一人が自分の就きたい仕事というのがイメージできているかどうかということで聞いているものだということでご理解をいただければと思います。

（春日委員）

それでは体験活動というような形ではないんですか。実際、職場へ行って勉強するとかそういうようなことではなくて、自分がそういうイメージを持てるかどうかというイメー

ジだと。

（小野沢総合政策課長）
　はい、そういうことでございます。

（春日委員）
　でも体験を通じてと言っているんだから、何かやるんじゃないのかなと思ったんですけれども。

（小野沢総合政策課長）
　いわゆるいろいろな体験を通じて自分たちが仕事をするイメージ、こういったものをどうつくっていくかという考え方になっております。
　農林業体験という形で、一つ抜き出してはおりますけれども、いろいろな体験をする中で、自分の就きたい職業というのをイメージしていけるかどうかというところが大事かなというふうに思っているところでございます。

（濱田会長）
　よろしいでしょうか。

（春日委員）
　あまりよく理解できないところですが。

（阿部知事）
　このグラフがミスリードになりかねない、この項目のタイトルと比べて見たときには、若干わかりづらいところがある。

（春日委員）
　合っていないと思いますけれども。

（濱田会長）
　ほか、いかがでございましょうか。では、畠山委員、お願いいたします。

（畠山委員）
　資料の２－２の６ページのところを見ると、子育て支援のものが出ていて、そこの評価がＣ判定になっているのですが、中身を見ると、結構、高評価に値するのではないかというふうには思うので、Ｃで本当にいいんでしょうか。
　それと８ページのところに、男性の育児休業のことが出ていて、取得率が評価のところでは、環境整備もできているというようになっており、Ｃ判定とはそぐわないというふうに感じます。また、時代の流れの中でこの数字に示されているように取れるようになったということに感心したのですが、このような内容的変化についての評価についてはどんな

ふうにお考えでしょうか。

（小野沢総合政策課長）
　実は昨年度、評価の仕方を変えさせていただいております。それまでは「順調」、「概ね順調」、「努力を要する」ということで評価をさせていただいておったんですけれども、昨年からＡ、Ｂ、Ｃに変えさせていただきました。
　その意味は、結局、先ほどのＣが「努力を要する」と評価してしまいますと、具体的に良い取組をしているのにもかかわらず、「努力を要する」との評価で良いのかどうかというようなところもございまして、Ａ、Ｂ、Ｃという区分けで表させていただいたところでございます。
　そういう意味でいいますと、達成目標としてはいろいろ目標を立てて、それには達しなかったけれども、実際にはいろいろな取組をして成果が出ているということは明らかですので、この指標の達成状況と、取組の内容、その成果みたいなところをあわせて評価をしていただくというのがよろしいかと思っておりまして、そういった表現にさせていただいたつもりではございます。
　そうした環境の中では、先ほど育児休業取得率も、倍増している状況でありますので、一定の成果は出ている、ということで見ていただいてよろしいかと思います。

（畠山委員）
　ありがとうございます。

（濱田会長）
　あと、ほか、いかがでございましょうか。

（阿部知事）
　これ、ちょっと私が口を挟みますけれども。今のご質問は私もこの評価を見ていて、非常に難しいなというふうに感じているところであります。
　実はこの、例えば今の６ページのところは、これ合計特殊出生率が1.56で、前年より下回っていますし、目安値も下回っているのでＣと。これ我々、さらに努力しなければいけないというところです。
　ただ、ご指摘いただいたように、いろいろな取組はやっています。我々行政がいろいろな施策を講じても、直接的にその効果に結びつくものと、非常に間接的に結びつくので、なかなかすぐには成果として現れてこないようなところがある中で、どうしてもこのＡ、Ｂ、Ｃ評価で、しかも数値目標の部分だけでＡ、Ｂ、Ｃという形でやると、どうも実感としては、これだけ頑張って指標も上向きになっているのに、ほかの例えばＡをつけているものとＣとつけているものが、そんなにレベル感が違うのかなというところが項目によっては感じてしまうところも正直あると、私も実は感じるところがあります。
　そういう意味で、少しこのプロジェクト別の分析みたいなところは、このＡ、Ｂ、Ｃ評価だけでなくて、ちょっと定性的な私どもの考え方を述べさせていただいているところであります。

先ほど課長から申し上げたように、Ａ、Ｂ、Ｃのところだけではなく、定性的な、我々の取組とかも含めて全体的に受けとめていただかないと、数字のところだけ見ると、若干、物によっては、先ほど会長からご指摘いただいたように、高校生の就職率みたいなところは100％目標になっていますので、限りなく100に近くてもＣ評価という形になっているものもあります。そこのところは、我々、これからの評価のあり方を考える上で一つの課題ではないかなというふうに思っています。

（山浦委員）

ちょっと感想みたいなことで大変申しわけないんですけれども、資料３のところに④の個別の指標の分析に留まり、施策に対する総合的な評価が行われていないと、これは何ですかね。

いや、何ですかという意味は、こういう部分があるんだろうなと私も思っているから言っているわけでありまして。

例えばその政策、信州創生戦略なんかを見ると社会増への転換というのがあって、これはＡ評価になっているんだけれども、中身のそのＫＰＩとかを見るとＣが10個もあって、それなのに全体目標はＡと、こうなっている。これきっとそういうことだよね、これ、そういうことでいいんですよね。

ということは、施策がぼけていたという、ぼけた施策をやって、全然達成しなかったけれども大目標は達成してしまったと、こういうことなんですね。そういうものはどういうふうに解釈すればいいのか、ちょっと我々よくわからないんだけれども。

（小野沢総合政策課長）

よろしいでしょうか。先ほど、資料３に書かれていたのは、今、まさに議論している今の計画の評価の問題点として、実はこの後、プラン2.0の新しい計画の評価をどうしたらいいかというところの課題として、整理させていただいたところであります。そういう意味では、委員ご指摘のとおりでございまして、こういう問題点は我々持っているところで、次の計画の評価にこれをどうやって反映させていこうかということで、この後、ご議論をいただきたいところの資料でございますので、また後ほど、何か思いがあれば言っていただけると大変ありがたいと思っております。

（山浦委員）

あのですね、私の感想から言うとですね、このＫＰＩ、目標なんですけれども、やればできる、努力すればできるものと、努力してもなかなかこう、実現ができないものとあるんですね。努力してできるものはもう100％に行っていないのはおかしいという発想をしないとね。何か勧誘するみたいな話は努力が足らないだよね。私からすると、民間からいえばまさにそう。

例えば銀行で言えば、訪問件数を増やす。訪問件数なんか、やる気になればみんなできるわけですよ、目標ね。ところが、実績が上がるかというとなかなか上がらない。ということで、そういう目標をやっぱり県の方々が、やればできるという目標はもう絶対やってもらわなければいけない、それができなかった理由はきちんと書いてもらうという必要が

あるんじゃないかと私は思う。
　それからもう一つは、私はね、非常に思うんだけれども、他県に行くことがあって、観光振興と長野県も観光をやっているんだけれども、他県へ行くと長野県より観光をやっているんじゃないかと思っちゃうんだよね。まあ、それは話を聞いていて、人のうちの畑はよく見えるというような話かもしれませんけれども。他県との比較というのを、やっぱりこれしていかないと、うちの銀行もそうなんだけれども、銀行の中でよかったよかったと、目標達成したとやっているんだけれども、ほかの銀行と比べたら全然だめとか、やっているんですよね。
　そこら辺はやっぱりきちんと他県はどうなんだろうという、観光の指標なんか、ある程度やっていることは同じ、どこもインバウンドを増やそうとか何かやっているわけですね。そういうものの増え方とか、そういうものを他県とか全国とか見ていかないと、長野県がどうなんだということが、一生懸命やっているのかどうかという評価ができない。ということをぜひともきちんとして、こういう審議会で見せてもらわないと、なかなか評価できにくいんじゃないかと私は思うんだけれども、どうですかね。

（濱田会長）
　いや、多分、そういう話だと思いますね。県の努力でできるものと、努力はしたけれども結果的に、いろいろなファクターが伴っていて、例えば健康寿命とか頑張っていますよといっても、いくら頑張っても増えるかどうかというのは違うファクターが出てくると思うので、ちょっと評価が違うと思うんですね。でも、何か県が人数や予算をつけたら増えるようなものは、多分数値も増えていくと思うので、その辺をうまく分けて考えていただくといいのかなという感じはしますよね。
　それと、さっきおっしゃった、これは後のほうのプラン2.0の政策評価にもかかわると思いますけれども、山浦委員おっしゃったように、立ち位置が他と比べてどうかというのは、これ我々大学とかは常に言われて、ほかの国立大学と比べてその数値はいいのか、悪いのかというのは当然ありますので、県も全てを当然にする必要はないとは思うんですが、その立ち位置がどの辺かというのは、やっぱりそれぞれのところで捉えておかなければいけない問題なのかなというふうには、私も思いますので。今後については、ぜひそのあたりも含めてだと思いますが。
　ほか何かございますか。では石田委員どうぞ。

（石田委員）
　既に話が出ているものでありますけれども、労働局のほうからしますとやはり雇用のほうの進捗状況とか、この辺はどうかなと見るときに、やっぱりCが多かったというイメージがある。全体の中で雇用関係とか、それからあと子育て、教育のほうの関係ですか、ここでCが多いというのでちょっと目立ってしまう。ただ、そこの見方については全体的な、これは目標への達成度ということの見方だということなんですが、そこはどうしても評価を見てしまうと、Cが多いんだなという印象を受けてしまうんですけれども、その部分だけがひとり歩きしないような説明の仕方ということはぜひお願いをしたいなというところでございます。

それとあわせて、このＣの部分について、これは資料１ですか、１の一番最後のところには、Ｃ評価の場合の一覧ということで分析評価をしていただいていると、これはこれでいいかなと思うんですけれども。

いろいろな指標が、いろいろな多面的な指標がある中で、やはりこの「しあわせ」というようなことを測るときに、例えばこの15ページのところでいうと、例えば、自分の仕事というのが公共的活動で発揮できていると思う人の割合とか、人の思いの部分については、かなりほかの物理的な数字とは違って、かなりしっかり分析をしていただきたい。ここの部分とか学校の満足度だとか、そういったところについては同じ並びではなくて、やっぱり「しあわせ」というものを感じている部分ということでの分析というのが必要なのかなということを感想的に思っています。以上です。

（濱田会長）

ほかはいかがでしょうか。では知事のほうから、もし何かあるようでしたら。

（阿部知事）

先ほどの山浦会長と濱田会長からのお話に関連して。

山浦会長のご指摘、全くそのとおりだと思います。これ、どちらかというと行政の目標設定の仕方が、アウトカムにする発想が強いんですよね。要は自分の、予算をいくら投入しましたかとか、何回会議を開催しましたかということの、もう一つ先の段階のアウトカム指標をなるべく設定しようという、世の中的にそういう考え方があるので、逆にやったか、やらないかという観点ではわかりにくくなってしまっているというものです。

我々やっぱり社会を変えていかなければいけないので、最終的にはアウトカムにしなければいけないと思いますけれども。山浦会長おっしゃるように、やっぱりその一歩手前で我々がどこまで努力するべきかという、もう一つ違う次元の目標、アウトプット指標もしっかり置かなければいけないというのは、確かに私もそのとおりだと思いますので、少しそこら辺は意識して、同じ目標でも、そこはかなり性質が違うと思いますので、そこはしっかりやり抜くという形を考えていきたいと思います。

それからもう一つ、他県との比較は私も必要かと思います。私もほかの県のこと、真似できるところはどんどん真似していくほうがいいと思っていますし、先行県のいいところはとりながら、むしろそれを上回るような政策をつくっていかなければいけないと思いますので、他県の状況というのは、やっぱりしっかり把握していくことが必要だと思います。

ただ、実は少しずつ統計は改善されてきていますけれども、なかなか他県と比較できる統計資料ばかりでないということもあるので、そこはちょっと工夫しなければいけないと思っているんですが。

例えば、山浦会長、観光の話をおっしゃっていただいたので、例えばインバウンドの観光客の伸びは、今年も長野県、全国の伸びを上回って伸びていますので、そういう意味ではほかの県より外国からお越しいただける知名度も、オリンピック等をやった効果もあってそこそこあると、ただ、まだまだ課題はいっぱいあるんですけれども。ただ、この観光の、例えば外国人の観光客の数値も、今までのしあわせ信州創造プランは、実はこれ他県との比較ができない県独自の数字で入れていました。途中で官公庁が全国統一の基準を入

れてきたので、今はそれに置きかえてきています。
　ですから、他県と比較できるような指標が出ているものについては、我々もそうしたものを積極的に活用して、ここではそういう形でお示ししていないんですけれども、対外的にご説明していくに当たっては、やはり全国状況との比較であったり、他県との比較であったりというのはやはり強く意識していくべきだと私も思いますので、そのようにしていきたいと思います。
　ただ、指標によってはなかなかとれないものもたくさんある、ということもあるので、そこはちょっと工夫をしていきたいと思っております。

（濱田会長）
　ありがとうございます。ほかはございますか。中條委員、お願いします。

（中條委員）
　資料２－２の36ページの公民館の担い手づくりに関する学級・講座参加者数のところですけれども、全てこうＡとなっていまして、これからますます、やっぱり学習することが大事なので、公民館主事の資質向上に支援をいたしますということなんですけれども。
　この公民館の数が長野県は全国で１位ということで、公民館がたくさんあるので、講座をすれば県民の学習につながるかなというのが、講座の内容であったり回数であったりすると思うんですけれども、単なる学級と講座の参加数だけでこうして統計をとって、それで長野県の学習と自治が進むかなと、ちょっと心配になったんですけれども。
　あと、子育てを支える環境づくりは皆さんがおっしゃったとおりですけれども、資料１－２の46ページの市町村における子育て世代包括支援センター設置への支援というんですけれども、センターをつくれば環境が整備できるのかな、もっとほかに県民の皆様の、シニアとか、それから若い子育て世代を交えた環境整備のやり方というのが考えられないのかなというふうに思いました。

（濱田会長）
　まだほかにもあるかと思いますけれども、この後のプラン2.0の政策評価のところでも、多分、関連して次の評価をこうしてくださいということで、意見を言うことができるかと思いますので、ちょっと次の議題のほうに移らせていただきたいというふうに思います。
　それでは、この今の議題につきましては９月の公表に向けて、本日のいろいろな意見を踏まえて確定するように、事務局のほうにお願いしたいと思っております。
　また、この後に出た意見が関連するかもしれませんので、その意見もぜひ反映していただければと思います。

（２）しあわせ信州創造プラン2.0の政策評価について

（濱田会長）
　それでは、次にしあわせ信州創造プラン2.0の政策評価の構築についてを議題とさせていただきます。

それでは、事務局のほうから説明をお願いいたします。

（小野沢総合政策課長）

それでは、引き続きお願いをいたします。資料３をご覧ください。既に前回のプランの問題点みたいなお話も少しいただきました。

私ども現行の評価制度の課題ということで、いくつかポイントとしてまとめさせていただいております。

１つ目は数値目標の評価。今、ご説明したように例として書いてございますけれども、今回であれば29年度の実績をご覧をいただいて、これにご意見等をいただく形で30年度の夏に評価分析をしていると。実際にこれをもとに、その施策に反映させるというのは、31年度の予算へ反映をさせて31年度に実際に施策を実施していくという形の流れになりますが、どうしてもここタイムラグが発生してしまうということで、この今の評価の形がいいのかどうか、と思っています。

それから実績値でございますけれども、毎年、目安値というものを決めて、それと比較して評価をしております。しかし最終的な目標に向けて、これとの関係性というのが実は見づらい、見えにくいというのが２つ目の課題でございます。

それから３つ目としましては、先ほどご説明したように、毎年度実績値がとれない指標というものが現実にあるということが３つ目でございます。

それから４つ目、これは先ほど来からご意見として頂戴しておりますが、個別の指標の分析になっていて、施策全体の総合的な評価につながっていないのではないかというようなところが、私どもとしても課題として考えられるところかなと思っております。

これに加えまして、今回のプラン2.0におきましては、例えばＳＤＧｓという持続可能な開発目標、こうしたものを組み込んでおります。こうしたものの評価、この取組状況をどう評価していくかというのが新たな課題として一つ考えられるかなと思っておりますし、また⑥にありますように、地域計画につきましては、今回のプラン2.0でかなり充実をさせております。こうした意味では、この地域計画の評価、これをどうしたらいいかというのがもう一つ、新たな課題としてございます。

そして３つ目でございますが、⑦にございますように、計画の中で中長期的に見据えて新たに取り組んでいくというようなことで、チャレンジプロジェクトというものを設定してございます。このチャレンジプロジェクトについても、何らかの形で進捗管理をしていかなければいけないと思っているところでございまして、こんなプラン2.0特有の新たな課題というのも出てきているということでございまして、こうした点も踏まえまして、資料３－２でございますけれども、今、申し上げた課題についてどんな視点で検討をしていったらいいか、実際にどう評価を見せていったらいいかというところでございます。

特に①、②と書いてございますように、より直近の評価を施策に反映させるためには、どのような仕組みにしたらいいのか。また、２点目としましては毎年度の実績値を目安値と比較する以外の、それに変わる評価方法というのはないのかというような点を特にご意見としていただければというふうに思っておりますし、そのほかに課題があれば、ぜひお聞かせをいただいて、私ども検討してまいりたいと思っております。こんな点で、ご意見等を頂戴できればと思っているところでございます。説明は以上でございます。

（濱田会長）
　ありがとうございました。それでは、ただいま説明がございました資料３の、しあわせ信州創造プラン2.0の政策評価について、それぞれご意見を伺いたいというふうに思います。
　最初の論点については、資料３－２にありますように、資料３に掲げた課題についてどのような視点で検討すべきか、特に①のより直近の評価を、施策に反映するためにはどのような仕組みとすべきか。②毎年度の実績値を目安値と比較する、現行の評価方法ですね。それ以外の評価方法はあるかという点について、ご意見があればいただきたいというふうに思っております。どなたからでも結構ですので、ご意見いただけますでしょうか。
　では、春日委員どうぞ。

（春日委員）
　私どももそうなんですけれども、こういう５か年計画とかそういうものの実績の評価をしていくときに、やはり毎年毎年とやっていくわけですけれども、到達目標が５年後のものがあるので、例えば②の実績値を毎年の目安値と比較して評価するため、最終目標との関係は見にくいというようなところは、やはり単年度の予算をきちんとつくっていく以上、毎年評価をしなければならないということになるんだろうから、その進捗状況で、到達点に対して何％のところに今、来ていますというようにしていかないと、きっと最終的に目安値との比較だけではなかなか、最後へ行ったらＣ評価だったというか８割ぐらいしかできていないとか、そんなふうになってしまうのではないかと。
　だから、最終目標に対して今年は何％ぐらいの到達点に来ている、では、あと４年間でどういうふうにしていこうかとか、３年間でどうしていくのかとか、２年間でどうしていくか、そういう評価にしていったほうがいいのではないかなというふうに思います。

（濱田会長）
　多分、これさっきの、前の計画を見ると、最終目標は多分、決められていると思うんですね。例えば100件なら、件数が100件なら100件にすると、そこに向けてリニアで増えていく、全て多分リニアになっているんですよね。
　例えば50から100にするときは、毎年10ずつ増やしていくという、リニアというのは、多分世の中では本当はリニアにするということは、毎年、全ての施策を同じ努力をするという意味に見えてしまうので、例えば５年間で、ある計画があったら、この年度にここをやるというような計画は、本来のプロジェクトといったらそういう形だと思うんですね。だからリニアって本当はあり得ないんです。だから最終目標を決めたら、それに向けてどう努力するかで年度ごとの評価というのはＣだろうが何だろうが、そこをあまりこだわらないほうがいいのではないかなと。
　だから、最終目標だけをターゲットにしていただいてという、そういう意味ですよね。

（春日委員）
　まあそういうこと。どのぐらい進んでいるかというのをきちんとやっていくということ。

（濱田会長）
　何となく、これ多分、我々もそうなんですけれども、最終目標を決めたら何かリニアにやるので。大学なんてもっと変なんですけれども。本当は整数しかない目標値が、小数値の目標値が出てきているものがある。それは私も非常に疑問に思っているので、そのあたりちょっと工夫がやっぱり要るのかなというふうには感じております。
　ほか、ございますでしょうか。では畠山委員、お願いいたします。

（畠山委員）
　今、お話されたことと付随するのだろうと思うのですけれども。取り組まれているものの進捗状況ですが、もう少し細かく書かれると、ここまで進んでいるのかという事がみんなにもよくわかるのではないか思います。全体の目標も含めて、今現在どの辺まで、１年ずつで切っていますがそうではなくて、30年の夏にこの評価を出してくるということであれば、29年が終わってから、ここまでどんなふうに進められているのかということも含めて記載されていれば、もう少し見える化できるのではないでしょうか。

（濱田会長）
　そのあたり多分、ちょっと課題かなというふうには思います。ほか、どうぞ。では小岩部長のほうから。

（小岩企画振興部長）
　貴重なご意見、ありがとうございます。今の濱田会長も含めて、評価のいろいろな仕方の話をいただいたんですけれども。
　私もこの評価の仕事を県に来てから３年、４年やりましたけれども、一つはもう既に走り始めた評価の仕方を切り換えられないという形で、前回の計画の評価の仕方をやっていた面もありますが、一番思ったのは、やっぱり評価をするものに対するめり張りがちょっともう少しあってもいいかなと。つまり、全て評価イコール目安値に対する割合という形で、全部、Ａ、Ｂ、Ｃという形を置いているという、そういったのは実は評価ではなく、分析にもなっていなくて、単なる数字の比較でしかない話ですので、もう少し深掘りするような評価・分析をしてもいいのではないかと思うところはたくさんありました。
　ただ、それを前の５か年で言いますと非常にたくさん、100以上ある目標を全部やろうとすると、かなりの労力になりまして、それだけで多分パンクするという現実問題があります。そうなるとやっぱり、ある程度、めり張りをつけた評価というものをやっていかないといけないのではないかということを考えております。
　新しい５か年のプラン2.0のほうは、そういう反省も踏まえて、重点目標だとか、関連目標だとか、指標にもちょっとめり張りをつけさせていただきましたので、その辺を何かよすがにできないかなというふうに思っております。

（濱田会長）
　ほか、いかがでしょうか。どうぞ中山委員。

（中山委員）
私のほうは評価の仕方ということもそうなんですけれども、先ほどの認識がちょっと違って伝わっていると大変困るので、もう一度、資料２－２の29と30ページをご覧いただきたい。申し上げたいのは、働く者の実態が今、大変な状況に陥っているということで、県内の学生のＵターン就職率はずっとＣで、今回についても実績値がないというようなことがございます。
あるいは、高校を卒業して県内の就職率、これは先ほどの問題もあるんでしょうけれどもＣ。あるいは職業能力開発施設の卒業生の県内の就職率。何を言っているかというと、県内で働こうとする人たちが、どんどんどんどん県外に行ってしまうというか、長野県で信州大学を出た人たちが信州で働いていただければ、長野高専を出た人が長野県で働いていただければいいんですけれども、出て行ってしまう。東京の大学へ行った人が東京に引っ張られてしまうということを防がないと長野県はだめでしょうということなんですけれども、そこの対策が大事であって、評価の問題ではないんだろうと思うんですね。
ですから私が申し上げたいのは、ＰＤＣＡが回っているのかと、分析って書いてありますけれども、原因をしっかり突きとめられているのかということが、どうもこの現状分析だけ読むと、こんな言い方をしたら失礼かもしれないんですけれども、ちょっと一方的な書き方になっていて、いろいろな皆さんの意見を汲んだ中で原因がこうなんだと、現状はこうなんだということをもうちょっと分析をして次にステップしていく。
ですから、Ｃにはこだわらないんだけれども、原因をしっかり捉えているかどうかという、そこがポイントだと思うんですけれども、それが何かされていないので、この雇用に関してはずっとこれＣが続いているような気がしますので、このＰＤＣＡサイクルの中での現状分析、原因分析をもっともっと重点、力点を置いてやってほしいということを申し上げたいと思います。

（濱田会長）
ＰＤＣＡを回すのはやはり必要かなと思いますが、ただ、先ほど部長おっしゃったみたいに全ては無理だと思うので、どこを重点にそれをやっていくかというのをやられるといいのかなというふうに思います。もうそのまま数値的なもので終わらせるものもあっていいとは思うんですね。ただ重要な、今、おっしゃったものはこれから、今、非常に人手不足になっておりますので、重要な部分であるかと思うので、その辺の重要度を鑑みながら、ＰＤＣＡを回していかれるといいのかなと思います。
ほかはございますでしょうか。どうぞ山浦委員。

（山浦委員）
１番のこの反映できないという、これ１年遅れるという意味ですよね。単純に言って１年遅れるという意味ですね、これ。ちょっとよくわからないんですが、１年遅れるというのは真ん中が空いているということですよね。これしょうがないんじゃないの。
多分、指標が出ないというと、もっと遅れるかもしれないよね。さっき言った指標が出てこないというんだったら、もっと遅れるかもしれない。これはまあ、普通の企業だった

ら予測か何かでやってしまうんだけれども、県は県会とかやって、予算で反映するということになると、なかなか面倒くさい話で、もう決められているんだから。まあ、補正もあるかもしれないけれども。そういうことがあるとなかなか難しいなと思いまして、仕方がないなというか、もっと早く予測をしておいて、多分、このぐらいになりそうだから予算をつけるとか。単純にいうと、目標達成しないからそこへ予算をいっぱいつけようということになるのかどうかわかりませんけれども、これは何か技術的なことでありますけれども、そういうふうに思います。

それから大体、目標が多過ぎるんじゃないかというふうに私は思うんですね、数字の目標が。もっとでかいものをドンと出してやっていかないと。私、このまま世の中みんなＫＰＩとか、やたらやっているんだよね、そこらじゅうのところも。

信大さんも文部科学省に言われてやたらやっているし、これは北川さんのマニフェスト論争から始まって、もう細かいことも絶対約束するぞみたいなことを、これで世の中おかしくしているんじゃないかと、大局を見失っているんじゃないかと私は思うんですね。大局を見失うと。そういう小さいところの目標ばかりやって、もうちょっと大きい目標は立てるけれども、小さいものはきちんとそれを達成してもらえればいいんだから。施策を進めて、そんな数字がいった、いかないじゃない。これ見ていても1.5倍も伸びたもの、2,000のところを3,000もいったようなものがいっぱいあるんだよね、これ見ていると。大体、目標の立て方がおかしいんじゃないかと思っちゃうわけですよ、逆にね。

ですから、それはもう、やっぱり県とか政府とか、そういうところは大きな目標をきちんと、もうちょっと夢のある目標をパッと立てて、それに向かってやるという、こういうふうにやっていかないと。やっぱり細かいことをいった、いかないと、そういうのはやっぱり夢がないよね。で、いかなかったよといって、県民がやっぱり夢を持てないということがあるので、あまり目標の数を多くしないということで、キーのものをちゃんとやっていくということで。

県会議員さんいっぱいいて、これもやれこれもやれと言われるからみんな目標をどんどんどんどんどん増えていって総花で、これもみんなこう言うから、みんな言うからみんな１個ずつ目標を立ててと、これはやっぱり総合的にいうと私はうまくいかない。やっぱり県は行政なんだから、県なんだから、やっぱり大きな目でパッパとやっていくということでね、意志強くやっていくということが重要じゃないかなと、私は思っているんです。目標自身がね、いいことなのかどうかよくわからないんだよね。わからないと思うんですよ、他県を見てやるのかどうか、ちょっとよくわかりませんけれども。そういうようなことがあるので、あまり目標の評価ということを、もうちょっと大きな意味で評価する、していくということが重要ではないかなというふうに思っています。

あと、このＳＤＧｓ、こんなものもちょっとよくわからないけれども、これはうんと気にしなきゃいけないんですかね。世の中はまさに、企業でもＳＤＧｓをやっていますので、世界的にやっているんですが、多分このプラン2.0では、できてしまった後で関係あるところを貼りつけていったという感じを私は思っています。

ですから、これは政策としてやっていって、結果的にこういうものに寄与したよという判定をすればいいんじゃないか。こんなことを言うと怒られちゃうかな、ちょっとよくわからないけれども、そういう感じかなと思っています。

まあ、地域計画の評価をどうするのかということは、これはあまりやり過ぎると、また県の中でこの地域がどうだとかという、あっちやこっちやとかいっていろいろな人が出てきて、自分の地域がどうだという話になってくるから、あまりやらないほうがいいんじゃないかと私は思います。

まあ、それは特徴を持った産業をやっていくという意味では、やっぱり納得づくでやっているものは評価していかなければいけないというふうには思うんですけど、そんな感じがします。以上であります。

（小岩企画振興部長）

ありがとうございます。今のご指摘で２点だけ、対応を考えないといけないかなと思っているところをお話させていただきます。

一つはこの政策評価の目的として、大きな軸足としてＰＤＣＡサイクルをどう回すかという話が当然ございます。もう一つは、そのやったことに対する説明、県民への説明も含めて説明責任をどう果たすかという二つの側面がございまして、どちらかに軸を置き過ぎると多分、極端な評価の仕方、手法になるんじゃないかなと思いますので、そこはちょっとバランスを見ながら考えていかなければいけないかなと。

今、山浦会長おっしゃっていただいたそのＳＤＧｓというのは、とにかく目標もそうですけれども説明責任、ご説明の中でこれはどうＳＤＧｓに寄与しているのかということを県としてどう説明するかと、そういうところになってくるのかなと思いますので、そこはバランスをとりたいと思います。

あと、分析について、間にどうしても予算が入ってしまって、２年程度の誤差が生まれるという話につきましては、先ほど会長がおっしゃられた、平均的に上がっていくというふうに置いているというのが、多分問題として似ているところがあると思うんですけれども、要は長期的に３年、あるいは４年のプランで物事をプランドゥをしていれば、計画期間の途中で出てきた数字に対して軌道修正で対応できると思うんですが、毎年毎年のプランだけでやっていると、多分、新しいプランをしないといけないので１年遅れになるということになると思います。そうなるとプランドゥの段階からある程度、複数年でどうしていくのかというところを考えていくというのが、これは評価というよりは政策の構築というところで重要になってくるのかなと。その辺はちょっと意識しながら県として対応していきたいなというふうには思っております。

（阿部知事）

中山会長と山浦会長がご指摘をいただいた点についてちょっと一言ずつ申し上げますけれども。

まずはＰＤＣＡをちゃんと回すべきだというのは、全くご指摘のとおりだと思います。今日も実は部内で予算編成プロセスのあり方をどうするかという議論をしたんですけれども、どうしても行政のプロセスの中では予算重視、決算軽視という、やってしまったことよりはこれからどうするかの方に先に気が回ってしまって、今の現状、それから実績を踏まえて、次にどうステップアップさせるかという視点が若干弱いと思っています。

それでも何というか、行政は済んでしまうので。済んでしまうというのはいろいろな、

先ほどの山浦会長の大きな目標を立てるべきだという話とも関連しますけれども、やらなければいけないことが実はいっぱい、国の法律であったり条例であったり、そういうことを決められてしまっているので、自分の頭で次のステップを思考するというプロセスよりも、むしろやらなければいけないことはやらなければいけないと、あるいは国が来年こういう補助事業をつくったから、それをどう活用するかという方にどうしても頭が行きがちです。私はそれ変えなければいけないと思っています。

中山会長からご指摘いただいたように、やっぱりこの評価、これは自分での評価も含めて、単に机上でやるんじゃなくて、先ほどもちょっとお話があったようにやっぱり関係の皆さんがどう受けとめているかとか、現場にこの政策はどういう効果を及ぼしているかということをしっかり踏まえた上での自己評価も行った上で、次のステップへ進んでいくということは徹底をしていきたいというふうに思います。

山浦会長からご指摘あったのは、大きな目標にすべきだというのは私も全くそう思っていますし、皆様方にお力をいただいてつくった「しあわせ信州創造プラン2.0」も、そういう意味で８つの重点目標ということを掲げていますので、ここにこだわりを持って政策を進めていかなければいけないというふうに思っています。

ただ他方で、今も申し上げたようにいろいろな計画をつくらされて、この総合計画とは別の次元のものも多く目標設定させられてしまっていますので、どうしても各部局としては、大きな目標の手前の自分に課せられた個別計画の目標をしっかりやらなければいけないというところがかなり意識されていますので、それはやっぱり最終的にはこの大きな目標につなげていくんだということを、やっぱり常に意識してもらえるように、私としては取り組んでいきたいというふうに思っています。

（濱田会長）

ありがとうございます。ほか、いかがでございましょうか。

（中山委員）

ちょっとよろしいですか。資料の３－２のその他の課題になると思うんですけれども、私もこの会にずっと参加をさせていただいて、一番残念だと思うのは認知度の問題でございまして。このしあわせ信州創造プラン、中身は大変すばらしいし、これを進めていくことが長野県のものだと思うんですけれども、それが県民になかなか伝わっていない。これ非常に、悔しいという言い方がいいかどうかわかりませんけれども、認知度を上げるためにどうしたらいいか、県民が参加できる、県民も一緒にやっているというので、頭の体操じゃないんですけれども、少しやっていかなければいけない。

これ、ちょっと変な話で大変恐縮ですが、例えば秋田の金足農業を県を上げて甲子園で優勝させるんだとか、そういう目標を持ってみんなでやっていた。ただ、うちだったら、御嶽海を横綱にするとかですね。何か県民が一緒になって喜んでやるんだというような、そんなちょっと工夫が一ひねり必要なのかなと。それでこういうこともやっているんだよということもあわせてセットでうまくやっていく。

これは目的は認知度を上げて、参加意識を高めて、知ってもらって、ああそうなんだ、では県民としてどうするんだ、一緒にやっていこうというのが知事のほうもお考えになっ

ていらっしゃることだと思うので、そこら辺を少し知恵を出して、課題目標を持ってやることが必要なのかなというふうに思っていますので、ぜひ、裏目標ではないんですけれども、ちょっとそんな知恵があるといいなと思いますので、よろしくお願いしたいと思います。

（濱田会長）
今、もうそのほかのほうの課題ということで言っていただきましたが、ほかに皆さんの方で、そのほかの課題、政策評価についてご意見がありましたらお願いします。
よろしいでしょうか。先ほどちょっとＳＤＧｓの話が出てきたんですけれども、多分ＳＤＧｓというのは、いろいろなことが絡んでいるので、逆にそれでどうかかわっていくかというのは難しいと思うんですね。
だから逆にいうと、ＳＤＧｓにかかわるようなもので、特筆すべきものを掲げるというやり方が多分一つのやり方。信州大学の場合だったら水の関係をやっているので、それがＳＤＧｓに一番かかわっているというのをちょっと表出しをさせていただいているんですね。
今、それに絡んで、例えばアフリカのタンザニアとかに協力をするというので、ＳＤＧｓ協力をしていますので、ＳＤＧｓって、どれかをつかまえて表出ししないと、いろいろ関係があり過ぎて、逆に目標設定が難しいのかなと思うので、県のこの施策の中でこれＳＤＧｓ、これを特出ししようというのを、別に一つである必要はないんですけれども決めていただいて、目標設定するのがいいのかなというふうにはちょっと私は思っております。
ほか、よろしいですか。

（石田委員）
関連してなんですけれども、やっぱりＳＤＧｓとともに、今年、この夏に働き方改革法案が通ったということで、今もここの法案の施行に向けて動いています。この働き方改革は、やはり魅力ある働き、それから多様な働き方ができると。そういうことで国のルールが決まったところで、全国一斉に動いているというような感じになっています。そんな中でやはり長野県が非常に魅力ある働き方ができる、そういうまた魅力ある働く場があると、そういったことに進めていくというのはこれから非常に大事な、ぜひ先陣を切ってやらなければいけない部分だと思っております。
そんな意味で、これ何かＳＤＧｓと結構似ていて、働き方改革にかかわる指標というのはいろいろなところにまたがってあるので、この指標というのは、そういう働き方改革に関連指標とし、パッと見て、働き方改革がしっかり進捗をしているというようなことがわかるものにしていただくということがあるといいかなと思います。

（濱田会長）
ありがとうございます。ほかはよろしいでしょうか。ちょっと時間がそろそろなんですけれども。
それでは、これまでのまとめで、知事から何かございましたら、よろしいですか。

（阿部知事）
もう大変貴重なご意見、いろいろいただいて大変ありがとうございます。

（濱田会長）
それでは、各委員の皆様からいろいろな貴重な意見をいただきました。ありがとうございます。限られた、今日は特に限られた時間の中で十分にご意見を伺えなかったこともあろうかと思います。もし追加のご意見がございましたら、お手数でございますが、後日、事務局までお寄せくださいますようにお願いいたします。
事務局には、本日の議論を踏まえて、新たな政策評価制度についてご検討いただければというふうに考えているところでございます。

（３）その他

（濱田会長）
次にその他に移らせていただきますが、この際ですので何かそのほかにご意見、ご要望とかがございましたらご発言をお願いいたします。よろしゅうございますでしょうか。
発言もないようでございますので、以上で本日の会議事項は終了とさせていただきます。委員の皆様には、会議の進行にご協力をいただきまして誠にありがとうございました。
それでは、事務局の方にお返しをさせていただきます。

４　閉　　会（保科企画幹）
濱田会長、大変ありがとうございました。
本日は、委員の皆様方、大変お忙しい中ご出席をいただきまして、また熱心なご議論、大変にありがとうございました。
以上をもちまして長野県総合計画審議会及び長野県人口定着・確かな暮らし実現会議を終了させていただきます。ありがとうございました。